興照寺報

平成25年2月
50号

発行　浄土真宗　興　照　寺
〒890-0045　鹿児島市武一丁目25番12号
電話099-254-3269 (代)FAX099-254-0303

親鸞聖人が書かれた母の字

一面　母の字
二面　凡夫の私が仏になるふしぎ
三面　秋季永代経・報恩講のお話
四面　諸案内・門徒会費のお願い等

母の字

上の写真の字は親鸞聖人が書かれた国宝になっている三帖和讃の中『高僧和讃』（善導讃）にある「釈迦弥陀は慈悲の父母」より写しました。普通”はは“と言う字は母と書く訳ですが聖人は上の様に書かれています。文字をお分かりでなかったとは考えられず、母の字の中をわざわざ子と書かれたそこには大きな意味があるように思われます。

先日グアムで痛ましい悲惨な事件が起こりました。暴漢に襲われようとするわが子を庇い、お母さんとお祖母さんが命を落とされました。その事件を聞いた時に頭にこの字が浮かびました。わが子を守ろうと必死に子供に覆いかぶさる母親の姿と、子という文字をしっかりと包み込み守るかのように見えるこの字が重なって見えたのです。

阿弥陀様の事を親様と言ったりします。仏様は我々の事を一人子のように慈しみを持って守っていてくださいます。その事を子供である我々もしっかり受け取り、報恩謝徳の思いを益々強くし、お念仏を称えていかねばならないと思います。

凡夫の私が仏になるふしぎ

浄土真宗の信仰の中心は聞法にあります。お念仏のお謂れを聞かせていただき、この私が仏となる身であることを知らしめていただく、聞くことにはじまり、聞くことに終わる、と言ってもいいでしょう。では、何をどの様に聞くのでしょうか？たった二つのことを徹底的に聞いたらよいのです。それは、

一、私のこころ
二、仏のこころ　です。

まず、私のこころを聞くとは、真実の自分の姿に気付かせていただくことです。真宗では、自分の本当の姿は罪深くして、限り無い昔から迷いの世界をさまよう愚か者であると深く信じる「機の深信」を説いてきました。親鸞聖人におかれては罪悪深重で無慙無愧の煩悩具足の凡夫であり、どのような行もおよびがたき身でそれゆえに、地獄に堕ちて行くしかしかたない自分であると言い切られておられます。たとえ耳に痛いことでも、大切な私についての真実であれば、あえて聞かねばいけません。

次に、仏のこころを聞くとは、阿弥陀仏の本願に出会わせていただくことです。本願とは、誓願とも言い、「どんなことがあってもあなたを見捨てることは無い、必ず救い取る」という摂取不捨の誓いであり、阿弥陀仏は計り知れない時間考えられご苦労なされて、それを成就なされ仏となられた如来であります。真宗では、その本願を深く信じる「法の深信」を説いてきました。親鸞聖人におかれては「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人が為なりけり、されば若干の業をもちける身にてありけるを、助けんと思し召したちける本願のかたじけなさよ」と本願との出会いを歓ばれています。

さて、私のこころは「堕ちる機」仏のこころは「助ける法」、堕ちる私が助かる私、何か矛盾を含んでいるようでありますが、ここに真宗のお教えお念仏という仏のお手回しがあります。「南無阿弥陀仏」を親鸞聖人は「南無」にヨリタノメ、ヨリカカレといただかれマカセヨと、「阿弥陀仏」に必ずスクウとの勅命であると受け取られ、本願の目当てが他ではなくこの私であり、自らのはからいを捨てて弥陀にすべてまかせまいらすことによって、お恥ずかしいことでありますが、が、そのまんま有難いことでありますの「法機一体」の他力のご信心といただかれるのです。

左の絵は妙好人と呼ばれた浅原才市さんの肖像画です。自分の顔に角を描かせてお念仏をいただかれる「法機一体」の姿として貴いものです。

門徒式章が新しくなりました。まだお持ちでない方は購入され（一本二三〇〇円）法要の際などにお掛け下さい。

二月十四日に本堂、納骨堂の蛍光灯の多くをLEDに換えました。明るさが少し増したようです。

秋季永代経法要

講師　永寿　厚信　先生

私たちは不思議と人間に生まれてきました。それも泣きながら生まれてきました。万歳を叫んで生まれてきた人はだれもいません。家族は諸手を挙げて喜んだでしょうが、本人は泣きながら生まれてきました。予感的中、生涯は苦の世界、どんな人もみんな四苦八苦の世界です。しかも生と死は裏表、いつ表が裏に変わるかわからない無常の中で人間は生きていかなければなりません。決定した死に向かった人生なのになぜ生まれた時に祝福するのでしょうか。それは、多くの苦が決して無駄ではなく、きっと慶びを見い出せるということで初めに慶びを引き寄せて言っているのです。

人間に生まれた一番の目的は「迷いの凡夫である私を知らせてもらうこと（迷いの解決）」です。「諸行無常・諸法無我」すべてのものは変わっていくのに変わらないと思うのが迷いであり、因縁の関係の中にいながら忘れているのが迷いです。その迷いの中にいるわが身を阿弥陀如来様が知らせてくださる。如来様とはどんなお方か。「真如来現（真如から来現する）」の中の二文字。真如とは、いつまでも変わることのない真実という意味です。如来様の真実のはたらきが「虚仮不実・煩悩具足の凡夫」であることを知らせてくださる。なぜ知らせてくださるのか。それは、私たちを捨てきれないからです。阿弥陀如来様の「凡夫を必ず救う」という本願は、誓願（ちかい）です。阿弥陀如来様が私たちに向かって誓ってくださった。それが「摂取不捨（摂めとって捨てない）」という誓いです。今日のみなさんの聴聞の姿が、如来様の「必ず救う」という本願力のはたらきの姿です。

（要旨）

㊟凡夫というは、無明煩悩われらが身にみちみちて欲もおおく、いかり、腹立ち、そねみ、ねたむ心多くひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえずたえずと・・・

〈親鸞聖人「一念多念証文」より〉

報恩講法要

講師　田中　昭文　先生

平成二十四年は親鸞聖人がお浄土に還られて七百五十回忌の法要の年でした。今と違い不自由な時代に九十年のご生涯を常に〝弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなり〟と頭が下がっていかれた方が聖人です。「頭が下がる」と「頭を下げる」一字の違いですが大きな違いがあります。報恩講のお勤めの終わりに「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし　師衆知識も恩徳も　骨を砕きても謝すべし」と言う『恩徳讃』を読まれましたが、この〝も〟の字には〝…してさえも〟と言う大きな意味があります。

もうすぐ正月が近づきます、多くの方が帰ってこられると思います。しかし、よく親が亡くなれば帰りづらくなると聞きます。楽しい旅行や里帰りも帰る処があり、待ってくれる人がいればこそです。皆さんはお宅には阿弥陀様が待っていて下さいます。真宗は下がらない頭が下がる宗教です。せっかく帰ってこられた子供さんたちに「頭を下げてこい」と強制するのではなく「ただ今戻りましたと報告してきなさい。」言ったらどうでしょう。真宗のご門徒の大会社の経営者が就活の面接で「貴方は次回の最終面接までにお母さんの足を揉んできなさい」と宿題を出したそうです。躊躇しながらやっと揉ましてもらったお母さんの足は細く痩せていました。しかし、その細い足を揉みながら自然と涙が出たそうです。暁烏敏先生の歌に「十億の人に十億の母あらむも、わが母にまさる母ありなむや」とあります。親鸞さまは母の字を一面の様に書いておられます。母と子の関係に一方ならない思いがあられたのでしょう。浄土和讃には「子の母をおもふがごとくにて　衆生仏を憶すれば　現前当来とほからず　如来を拝見うたがはず」とあります。長生きは法の宝と言いますがただ歳を重ねるだけではいけません、親様である仏さまのお法を聞かせていただく中でこの身を大事に育てていきましょう。

「親里に帰る一日よ　旅の身よ
つつしみてこそ　たしなみてこそ」

（伝、一遍）

春季彼岸法要のご案内

三月	午前 十時より	午後 二時より
十七日(日)	○	○
十八日(月)	○	吹上
十九日(火)	吹上	
二十日(水) お中日	○	○

（○の日時にあります）

・講師　筑波　英道先生（山口県）

春季永代経法要のご案内

・期日　四月　二十　日（土）
　　二十一日（日）

・時間　朝席　十時より
　　昼席　二時より

・講師　黒田　了智先生（熊本県）

※永代経の志納をおあげになりたい方は遅くとも四月十日までに寺へご相談ください。是非この機会におあげください。

（永代経志納のお勤めは二十一日の昼席に行います）

※永代経をあげておられなくてもどなたでも参加できます。せっかくのご法縁です。ご聴聞ください。

門徒会費のお願い

平成二十五年度の門徒会費のご負担、ご協力をお願いいたします。

金　額　年額　二千円

■納入方法

①ご自宅へお参りに伺った際に収めていただく。

②寺へ持参される。

③同封の振込用紙を使い、近くの郵便局から振り込む。

（手数料は不要です）

■納付期限

五月末までにお願いします。

「門徒会費」は、興照寺門徒としての自覚を持っていただくとともに、寺の運営活動の一助とする事を目的としています。また、会費納入者の名簿を基に年回忌法要等の案内も行っています。

彼岸に寺で納金される際は、懇志と区別して、”門徒会費“ですと明示してください。また、領収の半券を忘れずにお受け取りください。

納骨堂管理費のお願い

納骨壇をお持ちの方につきましては、管理費の納入をお願いいたします。

金　額　年額　一万円

振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。

花祭り

・日　四月七日（日）

・時間　十一時より

・場所　興照寺本堂

（和順会総会も合わせて行います）

＊＊花祭り関係諸募集＊＊

●余興参加者

踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。ふるってご参加ください。

●帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

六月燈のお知らせ

七月二十七日（土）

雨天時は本堂内で諸催し物を行います。舞踊等の参加もお待ちしております。

諸会会員を募集しています

◎親厚会（男性の会）
　毎月十七日十八時より

◎婦人会
　毎月十二日十二時より

◎和順会
　どなたでもお入りいただけます。
　四月の第一日曜日に花祭りを兼ねた総会を開いています。

いずれの会もいつでも入れます。寺の維持活動の一助ともなります。多くの方の参加をお待ちしています。詳しくは寺へお問い合わせ下さい。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたします。

詳しくは同封別紙をお読みください。

納骨堂募集

古い納骨壇にも空きが出ました。
ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

あとがき

寺報が今回五十号になりました。平成八年九月に一号を出して以来、年三回の発行で十七年になります。その間の事が短くも、また長くも感じられます。第一号はその年の一月に還帰した前住の追悼記事でした。爾来多くのお寺や周辺の出来事を伝えてきました。蓮如上人五百回遠忌、寺号公称五十年・新館新納骨堂建設法要、前坊守の還帰、親鸞聖人七百五十回遠忌・開基五十回忌法要等々。三十号からは紙面もカラーになり、見易くなったのではないでしょうか。これからも多くの事をお伝えしていきたいと思いますが、皆様のご参加ご協力を紙面に活かせたらなと思っています。

訃報

総代　鳥丸亮一氏が二月に亡くなられました。